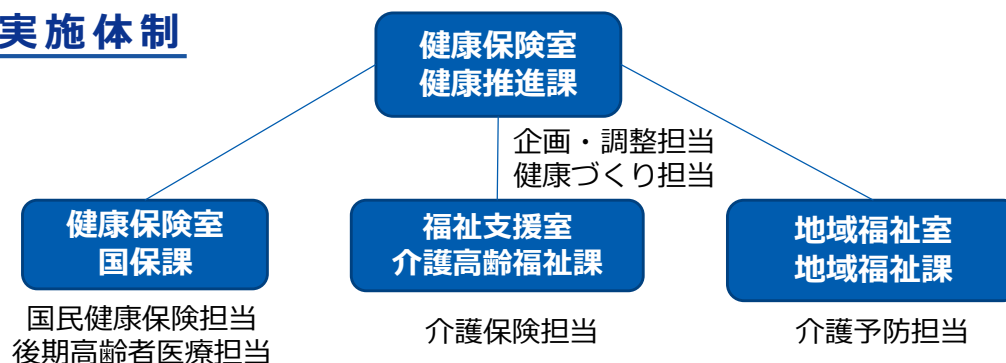


北海道帯広市 一個々の状況に応じたきめ細やかな支援の実施

市の概況（令和6年3月31時点）

人口	161,387人
高齢化率	30.8%
後期被保険者数	26,294人 (令和6年4月1日時点)
日常生活圏域数	8圏域

実施体制



取組の経緯

- 後期高齢者健診の有所見者割合（HbA1c、空腹時血糖など）が国と比較して高い傾向にあること、外来の医療費では糖尿病、慢性腎臓病（透析有）の割合が高いこと、入院の医療費では骨折、脳梗塞の割合が高いこと、介護認定率が国と北海道より高いことを踏まえ、糖尿病重症化予防やフレイル予防の取組強化が医療費の抑制につながり、高齢者の健康課題の解決につながると考え、事業を開始。
- 従来から取り組んできた保健事業を土台とし、本事業を展開することで、後期高齢者に対しても切れ目ない支援体制の構築を図ることとした。

企画調整・関係機関との連携

● 庁内連携

庁内4課（介護高齢福祉課、健康推進課、国保課及び地域福祉課）において、本事業に係る進捗状況の確認や各課事業の情報共有、地域の健康課題に対する検討等のため、必要に応じて、複数回会議を実施している。

● 関係機関等との連携

市医師会や糖尿病専門医等とは、対象者の治療や保健指導に係る連携体制構築に向け、意見交換を行うとともに、地域包括支援センターとは、ハイリスク者について、円滑に必要な支援につなぐため、随時、支援状況の共有等を行っている。

ハイリスクアプローチ

● 糖尿病性腎症重症化予防

後期高齢者のうち75～79歳の中で、健診結果（HbA1c、尿蛋白等）を活用した抽出基準に該当する者に、保健指導を実施。

対象者に対しては、一人につき3か月間に2回面接を実施することとしており、初回面接時には、健診結果を説明の上、生活習慣や身体状況、受診中の場合は治療状況を確認し、食事指導と運動指導を実施、改善計画を立案。

評価面接時には、改善計画の実施状況について、振り返りと評価を行うとともに、適宜受診勧奨や介護予防事業等必要な機関へつなぐ。

ポピュレーションアプローチ

● 健康教育・健康相談

通いの場において、フレイル予防の健康教育と後期高齢者の質問票を実施。

（講話と質問票の説明から、各健康課題を「自分事」として捉えられるよう工夫している。）

個別に介入すべきハイリスク者が把握された場合は、関係機関とも連携の上、支援を行う。



（健康教育）

北海道帯広市

事業結果と評価概要（令和５年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	糖尿病性腎症重症化予防	72	33	①食習慣の維持、改善した者の割合 ②運動習慣の維持、改善した者の割合 ③保健指導後、受診継続または開始した割合 ④翌年度健診結果が、糖尿病未治療者7.0%以下、糖尿病治療者8.0%以下の割合 ⑤翌年度の健診結果が腎機能低下の程度の指標を維持している者の割合	①食習慣の維持、改善した者の割合：89% ②運動習慣の維持、改善した者の割合：100% ③保健指導後、受診継続または開始した割合：87.5% ④令和７年度に評価予定 ⑤令和７年度に評価予定
ポピュレーションアプローチ	健康教育・健康相談	-	189	①実施回数、参加人数 ②質問票実施人数 ③フレイルリスク該当者からの相談件数	①フレイル予防の啓発：12回、189人 ②質問票実施人数：144人 ③フレイルリスク該当者からの相談件数：0件

課題・今後の展望

- ハイリスクアプローチにおいては、対象者の個々の状況に応じたきめ細やかな支援を行うことにより、保健指導後の生活習慣の維持、改善割合が高いほか、ポピュレーションアプローチにおいても、多くの方にフレイル予防の啓発を行うことができている等から、本事業による一定の効果を感じているものの、健康無関心層へのアプローチには課題があり、効果的な普及啓発を検討していく必要がある。
- また、令和７年度には、帯広市糖尿病性腎症予防プログラムの改訂を予定していることから、ハイリスクアプローチにおいて、高齢者の特性に合わせた対象者の選定方法について検討を行う。



（ハイリスクアプローチにおける対象者との面接）